

いちがお園だより

発行 社会福祉法人はしうど福祉会
発行日 平成28年3月1日
No.255



いよいよです

社会福祉法人はしうど福祉会（いちがお園）では撤退される徳洲会（愛心会）に代わり、次年度より宇川診療所の運営をさせていただく準備を進めてまいりました。

いよいよ開設の大詰めを迎えていますが、どのように変化していくのかをご紹介いたします。



いちがお園では特別養護老人ホームを増床します。
地域密着型介護老人福祉施設「宇川いちがお園」12床
特別養護老人ホームいちがお園 8床増床（従来型 多床室）
計70床の特養になります。
ショートステイは20床から12床に減床となります。
ショートステイのご利用につきましては、特養の空いたお部屋を利用して
もらうことができますので、ご相談ください。

医療法人愛心会宇川診療所は京丹後市国民健康保険直営宇川診療所になります。職員は社会福祉法人 はしうど福祉会の職員となります。

1階 外来診療 久高志医師（内科・皮膚科・小児科）
張端良歯科医師（歯科）
2階 地域密着型介護老人福祉施設「宇川いちがお園」12床
3階 京丹後市国民健康保険直営宇川診療所通所リハビリテーション
及び介護予防通所リハビリテーション
定員35名 月～金営業（年末年始休業）

はしうど福祉会の職員は117名から約145名になる予定ですが、調理員・介護職員を募集し続けており、まだ人が足りないのが現状です。

丹後町は高齢化率がついに39%を超えるました。独居世帯、高齢者二人世帯が多く、子供世代は都会で生活しているという家庭がとても多いです。その分地域での絆は強く、何かあればお互い助け合って生活されています。私たちは丹後町の高齢者福祉の担い手として、『わたしたちは、地域の皆様に信頼され、愛される施設を目指します』という理念のもと地域の方たちの協力を得ながら事業を運営していきます。

職員が増えてパワーアップ。共に力や知恵を寄せ合って丹後町の福祉に貢献していく所存です。



特養



居室



ホール

在宅介護支援センター

こんにちは。ケアマネジャーです

今回は「訪問看護ステーション きずな」を紹介します。

平成27年11月2日から丹後市民局庁舎内に『訪問看護ステーション きずな』が開所されました。これまで「弥栄病院訪問看護ステーション ふれあい」から丹後町まで来ていただいていました。しかし病院から家庭への移動時間が課題でした。病院のある弥栄町から丹後町の宇川地区までとなると車で片道30分ほどかかります。訪問看護ステーションきずなの開所により、移動時間が大幅に短縮され、訪問看護サービスの充実を図ることができます。

訪問看護師は医師の指示に基づいて医療的な処置（健康管理や服薬指導、床ずれの処置など）を行ってくれたり、日常生活のお世話（体の清拭や排泄の援助など）、リハビリテーションや介護相談にのってくれます。病院に行くのは大変ですが、訪問看護師に相談できると安心です。

名称：京丹後市立弥栄病院 訪問看護ステーションきずな

場所：京丹後市丹後町間人1780

丹後庁舎 1階

訪問日：月～金曜日

訪問時間：午前8時半～午後5時

*夜間や休日に体調が変化した場合など、24時間体制を整えています

利用料金：介護保険の場合 1割または2割（厚生労働大臣が定める額）

医療保険の場合 各種保険の種類により利用料金は異なります

職員：看護師3名

相談・申し込み：訪問看護ステーション きずな TEL 0772-75-1700

介護保険で利用される場合はケアマネジャーにご相談ください



新車



デイサービスとあきばの里の公用車は走行距離20万キロを超えて頑張って走ってくれましたが、このたび引退となりました。

代わって新車『タント』の登場となり、ご利用者の皆様をさらに安全に送迎させていただけるようになりました。
ある時は送迎車、ある時は配食配達車、あきばの里では青バトとして活用していきます。



2月のボランティア様

特養

むつみ会様 井上尚樹様

いわき

山本鈴子様 石井太志様
吉岡千代子様 宗村芳様

グループホーム

心美会様 井上尚樹様

クラブ

東恵美子様 廣瀬保子様

ありがとうございました

3月の予定

クラブの予定

生花 8日 手芸 4日 18日
書道 7日

3日 雛祭り行事
7日 グループホーム外部評価
17日 消防訓練
29日 理事会
23日 あきばの里運営推進会議

それぞれの日々



慰問あり、職員の出し物ありで盛り上りました

特養

【認知症ケア ユマニチュード】

特養では昨年より引き続き、身体拘束と認知症ケアということで「ユマニチュード」の取り組みを行っています。

ユマニチュードの4つの柱 「見る」「話す」「触れる」「立つ」

今月は「触れる」について ポイントは広い面積でゆっくりとやさしく

ポジティブな触れ方

「優しさ」「喜び」「慈愛」「信頼」が込められています。動作としては
広く 柔らかく ゆっくりと なでるように 包みこむように いきなりつかず、下
から 支えるように触れましょう。
ケアを行うときにはいきなりプライベートな領域の顔や手を触れるのではなく、上腕や背中など
の部位
から触れましょう。

ケアを受ける人を驚かす事を防ぐことができます。

指先だけではなく、手のひら全体で触れましょう。指は閉じず、開きましょう。

指を開くことで相手に接する面積をさらに広くすることができます。

指を閉じていると拒否的な感じを与えててしまいます。



「知覚の連結」

笑顔と穏やかな声、優しい触れ方、この3つを同時にに行いましょう。
視覚、聴覚、触覚の3つの感覚へポジティブなメッセージを同時に伝えることになります。

特養では取り組み中ですが、意識をして実践することが大切ですね。

参考文献：ユマニチュード入門 医学書院

手作り味噌づくり



先月号でお知らせした「味噌づくり」。現在法人での各事業所で封切りしていただいている。今年度は法人で協力し合って味噌を作りました。

インフルエンザ大流行の時期ではありますが、味噌づくりは敢行されました。当日は部署から選出された職員が集合し力を合わせて、揉んだり練ったりの重労働。午後からはデイのご利用者が参加してください、熱い豆をうちわであおいだり、暑がる職員をあおいだりして大活躍となりました。

昔味噌作りをしていたご利用者もあれば、初体験の方もあり、口も手も出て盛り上げていただきました。昨年は麦麹だったのですが、今年は米麹に変更しました。体に良いことには間違いない、発酵食品を大いにとてご利用者の皆様がお元気にすごせますよう、「おいしくな~れ」の言葉を添えて味噌づくりの1日は終わりました。

